【問】
幼保一体化などの新たな保育体制を模索している中、保護者、保育者、そして地域が、どう子どもを育成していけばいいのか。

幼「保＝「

hint!

公益財団法人成長科学協会　第25回公開シンポジウム

「幼児の生活と就学前教育を考える」

2012年6月2日(土) 13:30～16:30
UDXシアター（秋葉原UDXビル4階）

参加無料

■演　　者
岩田 力（東京家政大学家政学部児童学科教授）
秋田 喜代美（東京大学大学院教育学研究科教授）

■指定討論
小林 登（東京大学名誉教授
国立小児病院名誉院長）

■司　　会
長田 久雄（桜美林大学大学院教授）

INTRODUCTION

ごあいさつ

公益財団法人成長科学協会
理事長：入江 實

当協会は、子どもの身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、“心の発達研究委員会”（委員長：長田久雄）を中心として活動を続けております。

この委員会が企画致します公開シンポジウムも今回で第25回を迎えました。

今回は、少子高齢化の日本において将来を担う子どもたちを、我々大人たちがどう守り育てていけばよいのか、「幼児の生活と就学前教育を考える」をテーマにお二人の専門家の先生にご提言いただきます。

岩田力先生には、小児科医の立場から心身ともに健康であることの意味と病気予防の大切さを保健という観点から、また秋田喜代美先生には、保育の質が子どもたちに与える影響の大きさと各園において実際に行われている工夫・実践例などをお話しいただきます。

現在、幼保一体化などの新たな保育体制を模索している中、保護者、保育者、そして地域が、どう子どもを育成していけばいいのか。会場では、当委員会委員の小林登先生のコメントを交えながらディスカッションしていきたいと思っております。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

プログラム

日時：平成24年6月2日（土）
テーマ：「幼児の生活と就学前教育を考える」

13：30	開会あいさつ
13：35	「子どもの保健」 岩田 力（東京家政大学家政学部児童学科教授）
14：25	「保育の質と子どもの発達」 秋田 喜代美（東京大学大学院教育学研究科教授）
15：15	〈休憩〉
15：30	指定討論
15：50	質疑応答・ディスカッション
16：30	閉会

提　言／子どもの保健　岩田 力

我が国は、他に例を見ない少子高齢化の国家である。2.08 をきると人口の減少が始まるとされる合計特殊出生率も 1.39 であり、2010 年におよそ 1 億 2700 万人の人口が 2045 年には約 1 億人、2050 年には約 9500 万人と推計されている。生まれてくる子どもたちを如何に育てていくのか、しかもその子の持てる能力をどのように十全な形で育てていくのかが保育に関わる者の課題である。健全な精神は健康な身体に宿るという格言を持ち出すことはいささか誤解も招こうが、健康であることの意味を考え、それを維持すべく努めることは必要である。WHO 憲章前文の健康の定義を、日本 WHO 協会は次のように訳している。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」病気がないことが健康と同義ではない。また、仮に何らかの病気を持っていてもそれを良好な状態に維持できていればよい。保健とは、健康を保つことではあるが、健康な状態を広く捉えて考えてみる必要がある。

子どもがもっとも多く罹患する病気は感染症である。重篤にならずに自然経過のままで良いものもあるが、中には伝播力も強く、重症化して生命の危険や後遺症の発現を危惧しなければならないものもある。予防接種によって防ぐことが出来るものも多い。これらに対する正確な知識が必要である。

提　言／保育の質と子どもの発達　秋田 喜代美

現在では乳幼児期から、多くの生活時間を保育所や幼稚園など集団の保育・教育の場で生活する子どもが増えてきている。そのため保育の質が子どもたちの発達に与える影響の大きさが、OECD（経済協力開発機構）を始め、国際機関でも重要な検討課題として議論されている。具体的にどのような知見がそこから得られているのか、保育の質を規定する要因としてどのようなことが考えられているのかを紹介したい。また本講演では、我が国において、子どもの健やかな育ちを保障するためにどのような工夫が各園で（子どもたちに、保護者に、また保育者同士で）なされているのかを実践例等をふまえてご紹介する。そこから、具体的にどのような暮らしをこれからの子どもたちに保障していくことが必要であるのか提言をしていきたい。

国際的な保育の質研究においては知的発達に焦点があてられている。しかし、21 世紀の知識基盤社会において市民が豊かな生活を送るためには、身体の発達や対人関係のあり方の育成も重要である。この点について現在の子どもが置かれている状況を踏まえ、お話したい。

演　者／岩田 力　いわた つとむ

東京家政大学家政学部児童学科教授（小児医学研究室）。東京大学医学部医学科卒業後、小児科医として東大病院小児科などで研修。米国、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center にて小児免疫学を研究。東京大学医学部附属病院小児科助手、小平記念東京日立病院小児科医長、東京大学医学部附属病院分院小児科講師、助教授（科長）、東京大学助教授を歴任。

演　者／秋田 喜代美　あきた きよみ

東京大学大学院教育学研究科教授、日本保育学会会長、日本読書学会会長。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了（教育学）。日本学術振興会特別研究員、東京大学教育学部助手、立教大学文学部助教授を経て現職。専攻は教育心理学、保育学、授業研究。日本学術会議 20 ～ 22 期会員（心理学・教育学）。文部科学省中央教育審議会教育課程部会委員、厚生労働省社会保障審議会児童部会委員、国立教育政策研究所評議員など。子どもが育つ制度的な場での子どもと保育者・教師の発達、読書やことばの発達と教育をテーマに研究を行っている。

指定討論者／小林 登　こばやし のぼる

東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長、ベネッセ次世代教育研究所所長、CRN 所長。東京大学医学部医学科卒業。米国・英国に留学。東京大学医学部小児科教授、国立小児病院小児医療研究センター初代センター長、国立小児病院院長。定年退官後、甲南女子大学教授（子ども学）、子どもの虹（日本虐待・思春期問題）情報研修センター長などを歴任。他に臨時教育審議会、中央薬事審議会などの政府委員、日本小児科学会理事、日本アレルギー学会理事、国際小児科学会会長など。

司　会／長田 久雄　おさだ ひさお

桜美林大学大学院教授、成長科学協会理事、心の発達研究委員会委員長。早稲田大学大学院修了後、東京都立保健科学大学（現、首都大学東京）等勤務を経て現職。臨床心理士・指導健康心理士。心理学の立場から低身長児の生活の質の維持向上に関連した研究を行っている。

主催　公益財団法人 成長科学協会
企画運営　心の発達研究委員会
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-1-16 NP-Ⅱビル
TEL. 03-5805-5370